

平成 20 年 7 月 1 日



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成 21 年 2 月期 第 1 四半期業績の概況 (連結)

営業収益 98 億 5 百万円、経常利益 7 億 8 百万円、四半期純利益 4 億 6 百万円

※ 当社は前第 3 四半期より連結財務諸表を作成しておりますので、前年同期の比較対象として前第 1 四半期の個別財務諸表数値を使用しております。

ポケットカード株式会社(8519)の平成 21 年 2 月期第 1 四半期の業績は、割賦購入あっせん部門が順調に推移したことに加え、プロセシング事業を開始したことによる収入増の要因があったものの、融資部門では貸金業法改正に伴う上限金利の引き下げ及び与信の厳格化を実施した結果、営業収益全体では 98 億 5 百万円(前年同期比 3.0%減)となりました。

また、業務全般においてコスト構造の改善に努めたものの、プロセシング事業開始に伴う費用増や割賦購入あっせん事業の拡大等に伴う金融費用の増加により営業費用が増加した結果、営業利益は 7 億 3 百万円(同 55.5%減)、経常利益は 7 億 8 百万円(同 55.1%減)、四半期純利益は 4 億 6 百万円(同 55.9%減)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、カード決済領域の拡大や各種マーケティング施策及びショッピングリボ拡大への積極的な取り組みを実施したことにより、取扱高が 636 億 59 百万円(同 11.2%増)、営業収益は 17 億 25 百万円(同 27.0%増)となりました。また昨年 11 月からプロセシング事業を開始したことにより、プロセシング・保証部門の営業収益は 5 億 68 百万円(同 101.5%増)となりました。一方、融資部門につきましては、貸金業法改正に伴う上限金利の引き下げ及び与信の厳格化を行ったことにより、債権流動化分を含む融資残高は 1,398 億 26 百万円(同 0.1%減)、営業収益は 72 億 4 百万円(同 11.0%減)となりました。以上の結果、営業収益全体では 98 億 5 百万円(同 3.0%減)の減収となりました。

費用面では、業務全般においてコスト構造の改善に努めたものの、プロセシング事業開始に伴う費用増や割賦購入あっせん事業の拡大等に伴う金融費用の増加により、営業費用は 91 億 2 百万円(同 6.8%増)となりました。

以上の結果、営業利益は 7 億 3 百万円(同 55.5%減)、経常利益は 7 億 8 百万円(同 55.1%減)、四半期純利益は 4 億 6 百万円(同 55.9%減)となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	経常利益	純利益
平成 21 年 2 月期 第 1 四半期連結業績	9,805	708	406
(ご参考)平成 20 年 2 月期 第 1 四半期単体業績	10,105	1,576	920
前年同期比	△3.0%	△55.1%	△55.9%

◆ 第 1 四半期トピックス

株式会社MCプラスと提携、『LOVE EXPRESS カード』及び『LOVE EXPRESS FLEXY』発行開始

2008 年 5 月、PCショッピングサイト「LOVE EXPRESS」、携帯 3 キャリア公式ショッピングサイト「LOVE EX バーゲン」などを運営する株式会社MCプラスと提携し、『LOVE EXPRESS カード』及び『LOVE EXPRESS FLEXY』の 2 種類のカードを発行しました。

『LOVE EXPRESS FLEXY』はリボ払い専用のカードとなっており、お客さまの支払いニーズへの柔軟な対応が可能であるとともに、手数料収入の増加に直結するといった、収益効果の高い商品設計となっております。

以上